

ランチェスター戦略とはなにか?

“ランチェスター戦略”という競争戦略理論があります。

マーケティング・コンサルタント田岡信雄が1972年に提唱し、40年以上たった今も、メリハリの効いた活動を展開する“しっかり系の会社”で使われ、その発展に貢献している優れたものです。

たとえば、H.I.S.を日本一の旅行エージェントに育てあげた澤田秀雄は、次のように言っています。「メガコンペティションの時代を乗り切り、成功を実現するために、何にでも応用しやすいランチェスター戦略は非常に重要だ。わが社もこの戦略を活用し、挑戦してきた」。

でも、それは、意表をつくすごい理論ではありません。田岡自身、「戦略は常識である。複雑に難しく考えるものではない」と言っています。彼が言う常識は、競争に強いしっかり系の会社の常識です。

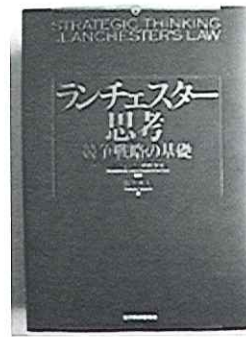
たとえば、「勝って勝つセンスを磨くこと」と、「勝てるところで勝っていく」ことです。実際、“競争に強い会社”は、社員を勝たせて育てます。“競争に弱い会社”は、社員を失敗させてつぶします。

“勝ち組になる会社”は、勝てるところで勝っていきます。強いライバルのいない領域を、いくつか攻略していったから、勝負に出ます。見込み客が1万人いても、100人を選び、その獲得に全力を尽くすことからはじめます。

“負け組になる会社”は、負けるところで負けていきます。激戦区の大都市への進出や全国制覇に最初からチャレンジします。見込み客が1万人いれば、1万人に広告などで売り込みをかけます。

ランチェスター戦略を学ぶのは、しっかり系の会社の常識を学ぶことです。また、ランチェスター戦略は、オペレーションリサーチの成果を元に、次の7段階のシェア率の目標値まで提供してくれる親切な理論です。

- ① 上限目標値 74%：(70%でOK) 独走状態
- ② 安定目標値 42%：(40%でOK) 安定的な強者
- ③ 下限目標値 26%：弱者と強者の境目。
シェア1位になっても不安定。
- ④ 上位目標値 19%：弱者のなかの相対的強者。
- ⑤ 影響目標値 11%：マーケットに影響を与える。
- ⑥ 存在目標値 7%：存在が認められる。
- ⑦ 拠点目標値 3%：なんとか存在できる。



(福田秀人著)

マーケットのなかで、安定目標値をクリアできそうなセグメント(小さな領域)を見つけ、そこにもてる力を集中して安定目標値をクリアし、そういったセグメントを順繰り増やしていくのがランチェスター戦略の基本です。

ランチェスター戦略学会副会長
福田 秀人

プノンペン、魅惑のプチパリへどうぞ

パリに行ったことのない私が、「プチパリ」などと言うのはおこがましいが、カンボジアの首都プノンペンには、他の東南アジアの町にはない、独特のセンスがある。

それを、「パリ」などと平凡なたとえにしてしまうが、カンボジアが旧フランス植民地だった歴史を考えれば、あながち間違っていないと思っ



(写真1)

ている。カンボジアは東南アジアでも最貧国の一つだ。特に首都と地方都市の貧富の格差は歴然としており、プノンペンだけ見て帰ると、カンボジアについて偏った印象しか持たないことになる。一方で、貧困やいまだに国境地帯で発見される地雷がカンボジアの姿か、という、それもまた「すべて」ではない。

当たり前のことだが、一つの国にはさまざまな顔がある。経済成長の機運に乗り、貪欲に幸福を求め都市の人々と、そんな「光」の影となり、いまだ電気も安全な水もない暮らしを強いられる人々。この国に限らず、途上国を訪れる時には、多様な現実をありのままに受け止める、強くて柔らかな心を持っていただきたいと思う。

さて、プチパリに話を戻す。

「雑貨」好きな日本人女性にとってあこがれの地といえば、ベトナム・ホーチミン市。ホーチミンは、かつて雑誌「クレア」などがこぞって特集し、雑貨のみならず、おしゃれ、グルメ、エキゾチックな旅を楽しむ旅行先として定着した。そのホーチミンに住む女性の友人が、プノンペンを絶賛している。

まずは、ブティックホテル。プノンペンには瀟洒なコロニアル調の一戸建て邸宅がたくさんある。商業ビルができる前は、これらが国際機関や民間企業のオフィスとなっていたが、今はビルができて空き家が結構目立つ。

そのせいか、市内にはプチホテルがやたらと増えているのだ。

広い庭に木陰のあるプール、今では手に入らないような木製の重厚感ある調度品、豪邸の客室に泊まったような気分になる部屋。しかも住宅地にあるから、レストランやカフェも近い。



(写真2)

高い壁に囲まれた邸宅は、首都の真ん中にぽっかりと静かな空間を創る。

こうした空間をやたらと破壊することなく、利用するところに「センス」を感じるのだ。

それから食道楽にはうれしい国際色豊かな食の街であること。カンボジアでは1991年に内戦が終結し、その後、世界各国から支援の手が差し伸べられた。紛争のたまもの、と言うと語弊があるが、各国から集まる援助関係者はやがてプノンペンにさまざまな各国の味を持ち込む。そのいずれもがレベルが高いのは、カンボジア人の舌が肥えているから、と私は思う。プノンペンの人々は、グルメなのだ。高級店から庶民派食堂まで、とにかく「おいしい店」に人は集まる。店の前に停まったバイクの数で評価が分かる、というものだ。シビヤなもので、だからプノンペンのレストラン地図は頻繁に塗り替えられる。

カンボジアを、「貧困にあえぐかわいそうな国」という視点で見ているなら、おしゃれな街並みを愛し、安くても高くても味にうるさい食道楽なプノンペンっ子の「人生の楽しみ方」には触れられない。「プチパリ」、プノンペンへようこそ!

月刊誌「プノン」編集長 木村文：プノンペン在住

※写真説明

写真1：新旧ライフスタイルが入り混じったプノンペンの町。混沌とした中にエネルギーを感じる。

写真2：最近プノンペンで流行中のプチホテルのひとつ。宿泊しなくてもプールサイドでビールやカクテルだけ楽しむこともできる。

★日頃多方面でご活躍中の 株式会社バンステーション 代表取締役 岡田政之様から現在コーディネーターとして関わっておられる「全日本農商工連携推進協議会」について概要をお伺いしました

Q：農業応援隊・全日本農商工連携推進協議会の目的についてご説明ください。

A：日本の農業を取り巻く環境（高齢化による廃業・休耕地増加、温暖化や異常気象、農業資材の高騰、TPP問題など）、食料、農業、農村の課題、解決するために農商工連携、6次産業化を推進する。

Q：主な活動事業内容や実績はどのようなものがありますか

A：年四回の農業セミナー、及び年四回の農業農村サポーターズマガジン「農業応援隊」の発刊農業応援コミュニティサイト「みんなのふるさと」の運営。

Q：9月に「2013 秋季・農業セミナー&交流会」を大阪市内で開催されましたが反響はいかがでしたか

A：去年の5月よりスタートして、9月のセミナーは7回目（大阪5回、東京1回）の開催となったが毎回100人席がほぼ一杯の参加者で、リピーターやコアメンバーも増加している。

第8回は12月2日（月）18時から、定例の住友クラブ（肥後橋）で開催予定。

Q：農林業に応援策を期待しますが、今後の活動はどのようなものを予定されていますか

A：永く1次産業であった農林漁業を2次産業（加工製造）、3次産業（商業流通サービス業）を一体化することで6次産業化を図る。（1次×2次×3次＝6次）

農業ベンチャーの発掘、育成も視野に入れ、国や自治体の農業ファンドや支援策ともつなげていく。

～ご協力有難うございました。ご発展を期待いたします。～

VECレポーターが行く！！

① 一般社団法人テラプロジェクトでものづくり支援事業「わらしべ市」が開催されました。

9月28日（土）に大阪富国生命ビル4Fにて大阪市ほかの後援も得て第一回わらしべ市が盛大に開催されました。

企業・個人をあわせ皆様が創作された作品33点を、相互に交換や販売もなされ物づくりの楽しさ・嬉しさを参加者と出展者が体験されました。

当日はシャープ株式会社からの講演や交流会もあり最後まで盛り上がりました。今後、本市を「アイデアをカタチに」を実行され物品の商品化等を後押しできるための新イベントとして、回を重ねて行かれる予定です。

この事業が物づくりの文化に寄与されることを期待しております。

② ナレッジサロン（グランフロント大阪内）の体験レポート

今年4月に開業した複合施設 グランフロント大阪の北館7階に会員制サロンがオープンされていますので、この度見学体験しました。談話や交流で熱気あふれるサロンからベンチャーや起業家が輩出されることを願っております。

<サロンのコンセプト>

ビジネスパーソン、研究者、行政関係者、クリエイターなど様々な分野や人々と「出会う」「混じあう」「発見する」「成長する」をコンセプトに価値創造を目指す会員制サロンです。

<サロンの概要>

ラウンジ、プロジェクトルーム、ライブラリー、ワークスペースなどが1200㎡のフロア内に設置され、ゆったりと談話ができるよう配慮されている。

営業時間は9：00～23：00 ・会員限定の木曜サロンも開催されている。

<企業・団体向け>

一般社団法人ナレッジキャピタルではナレッジサロンのほかビジネス拠点やイベント・セミナー会場の情報も提供するなど価値創造を目指されている。

わらしべ長者



ジャパニーズドリーム



(参照・ホームページ)

～VEC関西より～

・今年の夏は暑かったですね。その分海水温が上がったのか台風が猛威をふるいました。その代り豊作だそうです。悪いことばかりではないですね。
(本田)

・私の住んでいる地域が現在古家再生による街づくりとしてプロジェクトがすすんでいます。古い空き家や蔵を改修しカフェ、レストランに様変わりしています。オーナーも若い人が多く以前行ったカフェも女性オーナーでこのプロジェクトにより彼女の夢の実現に向けがむしゃらに頑張っている姿についつい応援したくなりました。
(濱本)

・福田先生には講演会でさらに詳しくお聞きしたいと思っております。ブノベン在住の木村文様からこれからの発展が期待されている現地からのレポートをいただきました。岡田代表からは本業以外に関わっておられる農業支援についてお伺いしました。皆様今後のご活躍を期待しております。
(澤村)

<交流会の予定>

12月は例年どおり開催はございません。